

2016年10月25日

三菱電機株式会社

三菱電機グループが、CDPの「気候変動Aリスト」企業に選定されました

三菱電機株式会社は、国際NGOのCDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）により、地球温暖化対策に熱心な企業として、最優秀の「Aリスト」企業として選定されました。「気候変動Aリスト」とは、その企業活動が気候変動対応と戦略において世界のリーダーであると評価された企業に与えられるものです。

CDPは世界の大企業6000社以上を対象とした気候変動問題への取り組みの調査をし、その結果を毎年公表しています。大企業の環境評価で国際基準となっており、世界827の投資機関（運用資産100兆ドル）がCDPの活動を支援しています。「Aリスト」には二酸化炭素排出削減活動や気候変動緩和への対応に特に優れた企業が選ばれるものとされ、今回は全世界で193社が選定されました。日本では500社が評価対象となり、265社が質問票に回答、9%に当たる22社が「Aリスト」に選定されました。



10月25日に行われたCDPの日本報告会では、当社から代表執行役 執行役副社長 大久保秀之が登壇し、当社グループの環境に関する取り組みについて以下のとおりコメントしました。

- 当社グループは企業理念に基づき、「持続可能性」と「安心・安全・快適性」が両立する「豊かな社会」の実現に貢献する企業を「グローバル環境先進企業」と捉え、企業活動を行っています。
- 「パリ協定」の発効は、当社にとっても大きな機会であると考えています。
- 当社グループは、家庭から宇宙まで幅広い分野で事業を展開しています。それらすべての製品・システムで、エネルギー効率を高め、省エネルギー化を図り、低炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。
- 当社独自の試算においては、高効率の製品やシステムの導入によるCO2排出削減の貢献量は、事業活動で発生する毎年のCO2排出量そのものの約50倍にも上っています。
- サプライチェーンにおける環境負荷低減だけではなく、「製品・システムの省エネルギー化」により低炭素社会の実現に貢献することが、三菱電機グループに最も期待されることである、と考えています。
- 省エネに加え、空調機では、地球温暖化係数の低い冷媒へ切替えを進めています。また、国内だけでなく、海外の生産拠点でも、温室効果ガスの回収と破壊を進めています。
- 環境教育にも力を入れており、昨年度は環境e-learningをグループで9万3000人が受講しました。
- 我々は、「グローバル環境先進企業」を目指すべき姿として追求しながら、事業を推進していきたいと考えています。

以上